

第2号様式（第12条関係）

令和4年度第2回大和市街づくり推進会議 会議要旨

- 1 日時 令和4年9月30日（金） 10時00分から12時00分まで
- 2 場所 大和市市民交流拠点 ポラリス 大和市北部文化・スポーツ・子育てセンター Room3
- 3 出席者 10名
- 4 傍聴人数 0名
- 5 議題
  - ・都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価について
- 6 その他
  - ・第21回大和市街づくり賞について

会議資料

- ・次第
- ① ・資料1-1 都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価
- ② ・資料1-2 都市再生整備計画 事後評価シート 中央林間地区
- ③ ・資料2-1 第21回大和市街づくり賞について
- ④ ・資料2-2 第21回大和市街づくり賞応募場所ご案内
- ⑤ ・資料2-3 第21回大和市街づくり賞一次選定用シート
- ⑥ ・資料2-4 第21回大和市街づくり賞一次選定集計シート
- ⑦ ・資料2-5 第21回大和市街づくり賞応募場所マップ
- ⑧ ・資料2-6 第21回大和市街づくり賞現地調査・最終選定シート
- ⑨ ・資料2-7 第21回大和市街づくり賞最終選定集計シート

■令和4年度 第2回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 令和4年度 第2回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 令和4年9月30日(金)10時00分から12時00分

[開催場所] ウェブ会議

(大和市市民交流拠点 ポラリス 大和市北部文化・スポーツ・子育てセンター Room3)

[出席委員] 10名(欠席:1名)

[現地出席] 黒石 いずみ/ホーテス シュテファン/須賀 良二/山田 俊明/大峰 英一

[Web出席] 杉崎 和久/三浦 由理/河村 奨/星野 澄佳/平田 章

[欠席] 江村 郁子

[事務局] 9名(街づくり施設部長、街づくり推進課長、街づくり総務課街づくり調査係2名、  
街づくり推進課街づくり推進係5名)

[担当課] 街づくり施設部 街づくり推進課 TEL.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

---

## I. 会議次第

---

### 1. 開会

### 2. 議題

- ・都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価について

### 3. その他

- ・第21回大和市街づくり賞について

### 4. 閉会

---

## II. 内容

---

### 1. 開会

### 2. 議題

・都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価について

事務局より、「資料1-1 都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価」と「資料1-2 都市再生整備計画 事後評価シート 中央林間地区」について説明ののち、質疑応答。

質疑応答(○ ▼市)

- いつもなかなか悩ましいが、この事業について、街づくり推進会議が評価をするわけではない。評価の対象は、大和市が評価した内容が適切であるかを評価するということで、ご確認いただきたい。なぜこのことを確認しているかというと、そもそも事前に設定した評価指標が適切ではないのではないかと議論が出てきてしまうため、指標自体は既に設定され、動いている。評価指標について、会議として「適切ではなかった」という意見を述べ、国に出す報告書に書くという事はありうるが、そもそも指標を変えるという議論は前提ではない。設定された指標と、それに基づいて出てきた数字があって、その数字の解釈について、先ほど見ていて私も「若干この数字からこの評価は言い過ぎではないか」と思うところはあったが、そのような気になるところや、定性的な評価等もあり、かなりボリュームがあるため、一つひとつというよりは、委員のみなさんが気になったところを適宜、ご指摘いただき、ここで合意をするというよりも、ご指摘を出し尽くしていただいて、そのご指摘をどう受け止めるかは、次に向けて事務局に判断してもらいたい。どなたからでも構わないが、意見や質問を出していただきたい。
- 資料1-1の中で、2-2で中央林間地区街づくりビジョンの課題について整理されているが、都市機能、住環境、まちのにぎわい、交通という4点のうち、住環境における課題に関する成果評価は、どこで示されているのか教えてほしい。どのように課題が解決されたのかが、今一つ見えにくいので、補足してほしい。
- ▼中央林間地区の街づくりビジョンが今回の整備計画の元となつてはいるが、このビジョンで掲げた課題をすべて解決するためのものが今回の整備計画ではない。誤解を招く説明となつていたかもしれないが、街づくりビジョンで掲げた課題をあくまでもご紹介したに過ぎず、整備計画ですべて解決することを目指したものではないとご理解いただきたい。したがって、整備計画で掲げた「目標」に対し、実際にどのような結果となつているかについて、ご議論いただきたい。
- 承知した。
- 中央林間図書館をよく利用する者として気になるのだが、成果の評価の中で、図書館の図書貸し出し数の目標値が低かったのではないかとと思う。というのも、南林間のおよそ9万5千人の住民が利用していた林間学習センターが廃止されたため、林間学習センター利用者が仕方なく中央林間図書館に来ていたのではないかと。図書館がない鶴間の住民が、大和に行っているのか、中央林間に行っているのかは分からないが、目標値をこの数字にする際に、そのようなことを考慮して議論したのか。
- ▼説明が不足していた点があったのだが、今回の整備計画について評価するにあたって、事前に設定していた指標は、中央林間駅の乗降者数と市民意識調査の2つである。今回、事後評価を行うにあたっては、これらの事前に設定した2つの指標だけで判断するだけでなく、事業効果を測る指標として「その他の数値指標」を設定した。その一つとして、中央林間図書館を整備する上で、最低限の想定数値と比較した。この最低限の想定と比較することがどうか、ということはお意見としてあると思うが、当初より目標は設定していない。基準を設けてはいないが、「想定冊数」と実績値を比較の対象として設定したことをご理解いただきたい。
- そもそも想定が易しかったのではないかと指摘については……。
- ▼指摘の通りだ。
- 指標については、最初に決めてしまったものだが、今の指摘についてはどこかに別途記載してほしい。図書館

に関連して言えば、添付様式4-2の総合所見が、数字に対して書きすぎではないかと思う。想定より多いことは分かったが、中身の分析をせずに、「親子連れ」、「利便性」、「市外」というところまでは、この数字では測れないのではないか。これは少し風呂敷を広げた方がよいという趣旨か。

▼実際には総合所見として記述している内容については、指標だけではなく、図書館施設運営の所管課にヒアリングを行って、利用者層を把握して利用のされ方まで含めて書いている。

○それであれば、そのように書いた方がよい。学生のレポートを指導しているようになってしまいが、数字だけでこのことを書いてしまうと疑問を持たれるが、担当課から詳しく聞いてみると利用者については「こういうことが分かっている」という書きぶりにした方がよいと思う。

○2-2に事業費が書かれているが、ここで議論することか分からないが、何にいくら、という内訳はどこか見れば分かるのか。

○ご質問の趣旨を明らかにしてほしい。

○成果を見る中で、どれくらいの予算が投じられているかを知りたい。

○費用についての数字が分かったときに、その数字を見てどのような切り口で評価しようとされているのかも含めてご説明いただけるとありがたい。

○今後、同じような整備計画が出てきたときに、どれくらいの予算が掛かるのかを確認しておきたいという観点と、私自身は相模原市内からこちらに来ているが、相模原市でも同じような話があると考えて質問をした。今、回答が必要というわけではない。

▼事業費の概要について、スライドではお見せしていないが、事後評価シートの添付様式1-②に事業ごとの事業費を記載している。ご参考にしていただきたい。

○承知した。

○そもそもこの目標は、拠点強化するための施設の効果について測るものという理解をしているが、そうだとすれば、これまで分散していた機能が集約されたことで効果が高まったとか、拠点の機能が従来のように分散しているよりも効果的であるといったことを証明することが必要なのだと思うが、今の評価軸では分散している機能が集約された結果としての効果は分からない。先ほど分散していた図書館が集約されたことが指摘されていたが、それと同様の資料を用意してもらうことはできるか。どこがどう良くなったのかが明確に分かることが必要だと思う。これまで分散していたことや用途に対するクレームがあったとして、集約することでクレームがなくなり、効果が高まった様子が分かるということが、コメントでも構わないのだが、あった方がよい。

▼図書館については、いくつかあったものが集約され、さらに駅前に設置されたことで利便性が向上したことについては、コメントを加えることを検討する。ただ、教育文化施設、スポーツ施設、子育て支援施設については、中央林間地区で不足しており、集約というより、不足していた都市機能を強化したもので、比較ではなく、なかったものを作ったという観点で考えている。その点でいえば、図書館も元々なかったものではある。

▼学習センターの図書室はあったが、北部に図書館はなかったため、新規に機能を生み出したという考え方になる。

○2-2のスライドにあるように、不足する機能を新たに確保し、それを交通結節点の近くに作ることによって拠点性を強化したということで理解した。そうすると、駅との関連性や駅の利用者が立ち寄って、よりサービスを受けやすくなった、ということが一言加わると説得力が増すと思う。図書館があればみんな喜ぶというストーリーでは弱いと感じた。

○今のご意見は、元々の指標にはないため、そこに書くのではなく、駅に配置したことにより利便性や使いやすさ

が向上したという見解が、第三者による評価で出された、という書き方もできるのではないかと思う。根拠となる数字はないが、第三者による組織で指摘があったと書くことはできるだろう。

- それはとても良いと思う。なぜかという、2-1のところ、これまでは鉄道会社でやっていたが、街は変わらなかったとある。鉄道会社のやっていることと、街でやっていることでうまくコラボレーションができて、より効果が上がったとすることで、2-1のスライドの内容を回収することができる。うまく書いてほしい。
- 指標は先に決まってしまうため、市作成のたたき台の数字をどう読み取っていくかという話がある一方で、事前に指標では表現できなかったが、課題とそれに対する効果があれば、指標に対するものとは別の部分で表現ができると思う。
- 中央林間に住んでいる立場から言えば、整備事業は素晴らしい結果であると思っており、満足している。具体的には、まず図書館について、近いところではつきみ野学習センターにしかなかったところが、東急の施設に入ったことで、本当に利便性の良いところになったと思っている。一度、訪れていただいたら分かると思うが、環境も良く、非常に良い居場所になっている。また、駅周辺の整備について、スライドの最後の方に踏切の写真があるが、踏切の拡幅が行われ、以前は歩道が半分くらいしかなかった。そしてこの踏切は開かずの踏切のようなところがあり、ロマンスカーなどが通ると、かなりの時間、開かないことがあった。そうすると、人や自転車があふれて、車道にはみ出てしまって、車がなかなか通行できないということもあった。それがこれほどすっきりして、素晴らしい結果だと思う。それに加えて、東口に改札が設置され、利便性が向上した。こういった駅周辺の整備も素晴らしい結果だ。この会議が開かれているポラリスについても、一番は子育て支援という意味で、素晴らしいところであると思う。この部屋を出たところも休日になると、学習のために中高生などでいっぱいになっている。幅広い世代で利用されており、いい施設ができたと思っている。強いて言えば、子育て支援が非常に充実している分、中高年や高齢者の居場所が意外とないように思う。2階でせいぜい卓球をするくらいしかない。そういった世代の居場所がないことだけが残念だ。評価指標が多くて、数値的なところや定性的なところについて具体的には指摘できかねるが、そういった思いが評価に反映されていることを期待したい。
- 指標については、議論できないが、個人的に興味を持っている部分について教えていただきたい。資料7ページの2-2にある街づくりビジョンの4つの項目について、事業を始める前の段階で、地域住民に意識調査を行ったという話が出ていたと思うが、住民の具体的な希望などはあったのか。そしてそれを事業に取り入れて、何らかの指標に反映させて把握することが重要なのではないかと思うかがか。
- 指標選定のプロセスまで含めて説明してほしい。
- ▼ビジョンを作成したのが平成27年で、様々な課題があった中で、地域住民の方に意識調査を行い、4つの課題を導き出した。具体的にどういった意見があったかについては、資料を持ち合わせていないが、結果として駅周辺の都市機能に必要な公共施設が足りないという意見があったものと承知している。住環境としては、駅近くに市街化調整区域もあり、その市街化編入により住みやすい街を生み出していくことが課題としてあった。まちのにぎわいと交通については、小田急と東急の交わる交通結節点であり、鉄道事業者の協力を得て駅を拠点とした中心市街地を再編していくことが、今後10~20年の長期にわたって考えていくべきことである。例えば駅東側の東急側の駅前広場については、南北に道路が貫通しており、歩行者の安全性に課題が残されている。将来的にはこのような課題の解決を目指した駅前広場の再編成についてなど、住民からは要望があったであろうと、推測にはなるが承知している。
- 住環境の概念にはどのようなものが含まれているか。具体的に聞きたいのは、「緑と文化に包まれた 誰もが住みたいと思えるまち 中央林間」とあるが、13ページの整備前後の写真を見比べると緑が減っている。この点

について、住民の方がどのように思っているか、何かデータがあれば教えてほしい。また、交通に関して、線路沿いの道路の整備について、車があまり通らなくなったとのことであつたが、街づくりにおいてある場所を車が通らなくなったら、別のところにあふれて車が増えてしまうということがしばしばある。このことについて、この場所ではどうであつたか。

▼まず、緑地について、ポラリス建設の前後で住民の皆様には何か調査をしたということではなく、住民の方々の考えについては把握していない。続いて、車両の通行が減少したことについて、大和市はウォークアブル推進都市に手を挙げており、駅周辺部については、回遊性を高めて歩行者に重点を置き、ある意味で車両を排除するという考えを取っている。車と人を分離して、道路であっても人が中心になって歩ける空間づくりをすることで、にぎわいの創出や安全な歩行環境の向上を目指している。今回整備をした通路については、著しく車両の通行が多かつたわけではないため、周囲に悪影響を及ぼすほどの渋滞などは起こっていないと考えている。今回の整備では、石畳調の歩行者道を思わせる修景整備を行っており、法的には車両の通行を規制していないが、心理的に車両が入りにくくなるという効果により、歩行者の安全性の向上につながっていると考えている。

▼1点目の緑について、補足する。これは街づくりビジョン上、緑を保全しながら住環境を整備するということで、お手元に街づくりビジョンをお持ちでない委員もいらっしゃるが、街づくりビジョンの5ページで、中央林間駅周辺にある程度まとまった緑があるため、こういったものは保全していきながら、住環境を整えることを示している。プラスアルファで内山地区という地区があり、こちらは現在、市街化調整区域であるが、駅に近いところであっても計画的に市街化調整区域として残している意味合いもある。こういった地区を、基本的には緑を残しながら、市街化区域に編入して良好な住環境を創出しようと考えている。また、ポラリスを建設したところは、旧市営緑野住宅の跡地であり、元々は駐輪場として暫定的に土地利用していた。写真では緑が多く見えるが、基本的には宅地だつたところである。近くには緑がまとまって残っている公園があり、そういったところは整備せず残している。したがって、ポラリス建設によって緑が減少したということはない。

○松が整備前には生えているように見える。

▼松だけは移植を行ったが、残念ながら枯れてしまった。

○駅の乗客数について、「指標としての評価は適切ではないと判断する」としているが、ここまで書かなくて良いのではないかと思っている。「この数字が悪かつたのはコロナの影響を受けた。」と書いておけば良い。

○追加で何かあれば事務局へ個別にご意見いただければと思う。

### 3. その他

・第21回街づくり賞について

事務局より報告ののち、質疑応答。

質疑応答(○ ▼市)

○スケジュール等というよりは、これで実際に審査ができるのかということも含めて、課題の指摘やご提案など、ご意見をいただければと思う。

○確認をさせていただきたいのだが、まず、資料の2-3について、インタビューもできず、見学も外観のみで活動を見ることができないが、委員が見たいと投票をした場合、事務局が何とかするということか。2-3の「投票」欄の意味が分からなかつたため、教えてほしい。この段階で、事務局が、「ここは見学できない」と決めてもらつて良いと思つたことが1点目である。2点目として、11月24日に終日、現地を見て、その日のうちに最終選定を

終了するという理解で良いか。

○1つ目の質問は、資料 2-3 の右側部分をどのような意図で考えているか教えてほしいということだと思う。

▼「現地調査当日について」のうち、「インタビュー」欄は、例えば、公園の応募について、応募者がその公園に来られない場合にはインタビュー不可としている。インタビュー先が代表者や経営者、店員、施設管理者となっている場合には、店舗等を想定しており、店舗の方にインタビューをすることを想定している。「見学(時間)」欄については、公園や公共施設の中に入って応募のあった居場所を見ることができる場合に「可能」と記載している。「外観のみ(車窓)」となっているところは、居場所として応募があったものが活動であり、その活動の場所は居場所ではなく、例えば学習センターの会議室など、あくまでも集まっている場所である。その場合には、会議室を見ても誰もいないので、どんな場所に立地しているか、ということまでは確認ができるという意味である。「活動」の欄は、応募者が当日、そこにいるかどうかで、いる場合には○、いない場合には×としている。△は、応募者はいるが、インタビューはできないということを表している。「場所」は市内の北部・中部・南部のいずれに位置しているかを示している。

○書類だけで審査するというやり方もあると思うが、現地に行くところと、行かないところ、話を聞くとところと、聞かないところがあると情報量に違いがある。それで良いかという議論がある。例えば、現地に行く日に応募者がいなければ、活動をビデオで撮ってきてもらったり、インタビューしてきてもらったりして代替する必要があるかどうかも含めて、皆さんの意見を聞きたい。それによって審査する日のやり方も決まってくるのではないか。

○まさに今のご発言と同じ疑問を持っていて、インタビューではなくアンケートを取るなどの公平性がないと、かなり印象も違うだろう。

○私も同じような危惧は抱くが、ソフトウェア的な活動というか、一つの場所にとどまらない、集まるという行為自体を評価したいという話もあったと思う。そうすると事前にアンケート項目を決めるということも難しいし、なるべく引き出してあげる口を増やしていく必要がある。最初の選定で名前しか分からないと、例えば、中央林間のサンマルクは分かるが、それ以外は分からないということもあり得る。ホームページやInstagramの写真でもいいのだが、もう少し追加の情報が欲しい。最終的にある程度、決まった範囲から評価をするということで構わないのだが、もう少し手掛かりが欲しい。

○事務局として、書類上、どの程度の選定のための情報がそろっているのか。活動をしているところの写真が添付されていたりするのか。写真も誰もいない公園が写っていたりするのか。

▼応募内容としては、資料 2-2 としてお示ししているが、応募用紙に記入された内容は、すべて同じフォーマットの用紙に事務局が転記する。応募時に添付された写真はそのまま添付するが、別途、事務局が撮影した写真もある。活動を居場所として応募された場合には、活動時の写真や、公園であれば人が遊んでいる様子が分かる写真を応募者が添付しているが、事務局が公園の普段の様子を撮影したものを添付している。

○今の流れでは、書類審査で絞らざるを得ないと思うが、その際には資料 2-2 で示されているものに文字が入っており裏面に写真が 6 枚、生き生きとしたものが撮れているか撮れていないかは応募者のセンス次第として、それらの写真からまずは判断することになる。その上で、現地には行くが活動が見られない、あるいは現地に行けなくなったときに、どのように判断するか。そもそも一次選定でひとりが 20 か所を選ぶ必要があるのか、個人的には疑問だ。最終的に選ばれるのは、4 か所程度なのだから、委員それぞれが 4 か所を選んでも、10 か所くらいが残るのではないか。10 か所行くだけでも大変だ。少なくとも一次選定のやり方は議論しておきたい。

○一次選定をやって、現地を見に行くというのは、変えられないと思うが、資料 2-6 で、現地を見たときにどうい

った評価をするかという選定の視点を 4 項目でやるということをこの会議でも決めているから、書類の上だけで 4 つの視点で委員が書いてあるのを見て、現地をどこに行くかふるいにかけるということしか、もうできないのではないかと思う。

- 今の論点は、現地に行けるところと行けないところがあるということが良いのかどうかだ。行ったところの方が、情報がたくさん入ってくるし、深く知ることができるが、その日はたまたま都合が悪いとか、活動をしていないとか、そういった場合には書類でしか判断できず、それは情報量としての公平さが無いのではないか、という問題提起にどのように答えるか。
- 現地は絞った方が良いというのと、行けないところは少し事務局が取材をしたり、ビデオを回したりといったことをやってもらえると、情報量は違うが、書類だけでやるよりは良いかなと思う。
- ▼一次選定で選んだところを 20 か所なら 20 か所で上限を決めて、それに対しては、基本的には現地に行くこととし、活動が居場所であるという応募であれば、当日に活動していない場合があるため、事務局側で活動日の様子についてビデオ撮影なり、インタビューなりを行い、それを最終選考の際に委員の皆様に見ていただき、評価にあたって同じレベルにもっていく、ということまでしかできないと思われる。公平性は重要であるため、できるだけ事務局側で足を運んで同一のレベルまでもっていきたいと思う。
- あとは、事前に質問事項を用意しておいて、それに答えてもらうとインタビューの代替にだいぶ近くなる。また、20 か所ではなく、もっと絞り込んで良い。
- 現在、39 件の応募があるとのことだが、重複もあり、居場所の種類が店舗であったり、個人宅であったり、公共施設であったり、様々だ。判断に当たっては公平に判断するにしても、応募の趣旨もスケールも違うため、カテゴライズしてその中で事前チェックの上で委員が選んだ方が良いのではないか。これだけでは選べないと思う。
- それは大きな議論で、カテゴリー分けすると分野別に 1 つずつ選ぶという話になりがちで、そうするとそもそも募集の時に「〇〇部門」としておくべきだったとなってしまう、可能ではあるが、全体を揺るがず議論ではある。前もって選定の視点を定めており、仮にコミュニティカフェが多かったとしても、活動が素晴らしければそこから選んで良いという前提で進めている。カテゴリー分けを妨げるという意味ではないが、大きな議論だ。
- カテゴライズをして、その中から選ぶといった踏み込んだことを主張したいわけではなく、現地に詳しくない私としては、応募があった居場所のことが、全く分からないということが起こりうると考えている。だから、重複もあるため、少し整理をしてほしいというというくらいのつもりでの発言だ。
- 重複を整理すると 32 件ということで良いか。
- ▼おっしゃるとおりだ。
- まだ増える可能性はあるのか。
- ▼募集期間が本日までであるため、もしかすると増えるかもしれない。
- 応募があった場所をもう一度見せてもらいたい。
- 「自宅」などもあるが、対象になると考えて良いか。
- ▼「自宅」として応募があったのは 2 件であり、事務局としては私的な空間であるので、「自宅」を一次選定の時点で対象外とした方が良いと考えている。そのように進めて良いか。
- 「自宅」というだけでは判断できず、ダイニングを開放して地域の人を呼び込んでいるようなものもあるかもしれない。内容が分からないと、外しましようとはならない。やはり「自分がくつろげる」といった趣旨の応募であれば、対象外となるだろう。



○□□□□□は商売だろう。

○それは選定の際に票を入れなければ良い。いくつか選定対象から削除されても委員の負担は変わらない。

▼承知した。

○「自宅」というのが、家族がくつろぐという内容なのかどうかは確認する必要があるだろう。

▼資料2-2は、事務局側が取りまとめるもので、先ほど申し上げたように現地に行って調査をする。そのときに事務局が調査した内容をコメントとして記載し、委員に活動等についての共通認識を持っていただけるようにしたい。カテゴライズ等の議論もあったが、応募者がどのような意図で応募したのかについて、事務局なりに解釈をしてコメントを付けて委員にはご判断いただくように進めるというのはいかがか。

○そうしていただけるようお願いしたい。応募用紙では、こちらの聞きたいことに全然答えていないということもあると思う。事務局で評価するというよりも、補足してもらおうイメージだ。

▼例えば「自宅」の応募については、その自宅を開放しているのか、応募者自身がくつろぐための居場所なのか、調査をして、資料2-2の中にコメントとして反映して、一次評価の判断をしていただくようにする。

○事務局で応募用紙の内容を要約して、応募された居場所がコミュニティカフェなのか、店舗なのかがパッと分かるようにしていただくようお願いしたい。

○一次選定をするにあたっての素材として、応募用紙があり、写真もあるのだが、加えて応募の一覧に公共の場所なのか、店舗なのかなどを事務局で補足した資料を作っていただきたい。場合によっては写真も追加で撮影をしていただき、それをもって一次選定に臨むこととしたい。次に二次選定で現地を見る数の議論があるのだが、話を聞ければ1か所につき10分で終わらせるわけにもいかないだろう。20か所では多すぎ、10か所でもさらに絞りたい。タイミングが合わないところは、事前にこちらから質問事項をいくつか投げかけ、答えていただくか、現地の活動している雰囲気分かる動画、あるいは静止画でも構わないが、それらのビジュアル的なものを事務局に用意してもらい、そこから選んでいくこととしたい。ここまでは共有されたと思う。

○現地調査で10か所回るのも厳しいし、一次選定で20か所を選ぶ必要もないと思う。5か所選んで、上位8か所くらいで良い。4か所選んでも、分散して8か所程度にはなるだろう。

○二次選定の日現地に行って、その日のうちに決定をすることについて、まだ結論が出ていないが、いかがか。それによって、現地を見られる数も変わると思う。

○当日対面で決めてしまいたいというのが、事務局としての考えだが、今のご意見は別の日に決定することも含めて検討すべきという趣旨か。

○もし同日に決定するのであれば、現地視察の数は、おのずと限られてくる。そのためには、現地視察の数の絞り込みも必要になってくるという趣旨だ。

○そもそも10か所回るのは無理があると思う。話を聞いたら1か所につき10分では終わらないだろう。外観だけ見て通り過ぎるにしても、戻ってきてから映像を見る時間なども必要になる。行ける/行けないは別にして、いずれにしてもそれなりに時間は必要になるが、いかがか。やはり現地を見る数も絞りたい。そのためには一次選定の数も絞りたい。

○参考までに他市で同じように、現地視察と同日に意見を集約したことがあるが、午前9時集合で、会議室に午後3時に戻ってきて、そこから午後6時まで、約3時間議論したときには、現地を見ることができたのは5件だった。

○私も経験的にはそれくらいだと考えている。移動時間もあるし、現地に着いたら説明をしてもらって、こちらからは質問をして、というやり取りをしたら、あっという間に20分から30分ほど1か所がかかってしまう。

- そもそも街づくり賞の受賞数を4件程度としているが、受賞数が3件なら3件プラス1件くらいに絞り込んで決めるという感じではないか。したがって、見に行くとしたら5～6件かと思う。
- 原則そのようにして、一次選定でもめた場合には、6件目や7件目も現地視察を行う必要が出てきたら工夫をしてみるということではいかがか。
- 妥当だと思う。選定する側の体力の問題もある。
- 4件程度というのは、どのような意味か。気持ちとしては3件だが、もめたら1件追加するくらいの感じなのか、5件まで良いのか、原則は決めておいた方が良い。状況によって1件増やすなどはあり得る。

▼原則は4件と考えている。

- 承知した。4件を選ぶということで、5件になっても対応できるということと考える。そうすると、1か所20分で移動時間も考慮して、5か所くらい回るということで考えたい。ボーダーライン上で接戦だった場合には現地を視察する。したがって一次選定で6番目くらいまでが現地を視察することがあり得るということで、一次選定を進めることではいかがか。

(異議なし)

- それではそのように進めたいため、事務局には準備をお願いしたい。繰り返しになるが、一次選定で20件選ぶ必要はあるか。

▼4件程度選んでいただき、5～6件に絞ることとしたい。

- 一人5票くらいで、票が割れて順位がどうなるか、ということで良いだろう。
- 一次選定の段階で情報が足りずに4件すら選べないという可能性があることが心配だ。意見というよりは、どうしようかなという感想だ。
- 基本的には5件と決めておいて、出てきたものを見て6件にしようということもある。最終的には受賞の4件に絞らないといけない。
- そのあたりは緩くやらしてもらえれば大丈夫かと思うが、4件縛りがあると、当日開けてみて厳しいということもあり得る。
- 事務局とも検討するが、ボーダーライン上の4件目と5件目の間で決め切れない、あるいは一つ広げても5件目と6件目、7件目も苦しいという話になるのかは分からない。この辺りは事務局とも相談をする。ポリュームとしてはそれくらいの絞り込み方で良いだろう。
- 前回の選定では、公共施設を選ばないとしていたが、公共施設であっても、活動がメインであれば選定の対象とするか。
- 良いのではないかと思う。市がやっている事業だとしても、素敵な事業もある。あえて外す必要はないと思う。他に何かご意見等はあるか。
- 2点ある。記念品が図書カードだと使い勝手が悪いのではないか。また、表彰式の場所が本庁舎の研修室となっており、これまでの表彰式の会場と明るさが違う。しつらえに工夫が必要だと思う。意見として述べておく。
- 居場所が素敵というのであれば、良い空間で表彰もしたいが、端的に会場を押しえられなかったということだと思う。1点目も行政の事情があると思うのだが、図書カード以外にこれが良いというものはあるか。
- 子どもたちが卒業記念でクオカードをもらっていたが、今は使わないのかもしれない。
- 図書カードはどこでも使えると思う。
- もっといろいろな場面で使えるものを記念品として贈呈したら良いという提案だと思うが、どうか。
- 今までは盾など、使えないものを差し上げていたので、使えるものになったのは進歩だと思うが、団体に対して

図書カードを贈呈すると考えるとどうかと思った。

○具体的に提案があれば、それに変更することもできると思うが、事務局から何かあるか。

○ここ最近、行政ではAmazonギフトカードを見かける。本も買えるし、文具も買える。子どもから大人まで使い勝手も良いと思う。

○図書カードを贈呈するという前提で募集しているのではなかったか。

▼募集案内には、記念品としか明記していない。図書カードにした意図としては、大和市が現在、「図書館城下町」を謳っているためである。

○そのような積極的な理由があるということで承知した。記念品については次回以降、まだ議論ができるため、ここで一旦、終了し、時間も過ぎているため、事務局にお返りする。

#### 4. 閉会

事務局より、次回会議の日程調整について連絡し、閉会。

以上